

組織募集をもって募集強化期間に挑む 駅前大型ディスプレイで自衛官募集を呼びかけ



本厚木駅北口前の「あつぎビジョン」による
自衛官募集CMの放映中、市街地広報に励む
募集課長（奥）と広報官（手前）（本厚木駅前）

神奈川地方協力本部（本部長 山野太資 1海佐）は、厳しい募集現状を踏まえ、年度末に自衛官候補生の採用試験を追加実施した。それに伴い、2月から3月にわたって募集強化期間を3回設け、地本本部と出張所等が一丸となり募集広報に取り組んだ。

このような中、厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、3月1日からの1か月間、厚木市の協力を得て、小田急線本厚木駅北口前に設置されている市所有の300インチ大型ディスプレイ「あつぎビジョン」でCMを放映し、自衛官募集を呼びかけた。

「あつぎビジョン」は、主に厚木市など自治体の情報発信に使用されており、そこで自衛官募集を呼びかけることは、市民が自衛隊をより身近に感じる一助となることもねらいのひとつ。

本厚木駅の乗降者数は、1日約14万人。駅や駅前の商業施設などを訪れる多くの人に自衛官募集を周知することができ、募集効果が期待される。

放映にあわせて駅前では市街地広報も実施し、街頭を歩き交う若者に募集リーフレットや募集チラシ入りのポケットテッシュ、募集漫画「平和を仕事にする」を広報官が笑顔で手渡し、年度末の採用試験に向け奮闘した。

厚木募集案内所は「非常に厳しい募集環境が続く、地本のみでの力ではこの現状を打開することは難しい。各協力団体や市町村等の協力を得て、組織力をもって、この危機的状況を乗り越えていきたい」としている。

航空学生海上要員「小月基地研修」参加者を激励



新幹線ホームで激励を受ける
若松さん（左）、松村広報官（中央）

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤 1空尉）は、2月9日（金）、市ヶ尾募集案内所を通じて、海自航空学生海上要員採用試験を受験し合格、入隊前の4日間（2月9日～12日）の小月基地研修へ向け出発する若松 隼風（わかまつ はやて）さんを新幹線ホームで激励した。

若松さんは、高校3年生で進路を決められずに日々を過ごしていた際、友人から自衛官になった先輩がいることを聞いて、市ヶ尾募集案内所を訪れた。パイロットになる道があることを知ると、受験を決意し、勉強を続けた。

当日は、緊張した面持ちで新横浜駅に現れた若松さんだったが、広報官の姿を見つけると表情が和らいだ。若松さんは「聞きたいことが色々出てきて、携帯にメモしてきました。パイロットになるために学ぶ場所をしっかりと見てきます」と話し、これから始まる研修を楽しみにしている様子だった。

研修では、入隊時と同じ身体検査も実施される。大きな荷物他に、手にしたおやつのにぎに気づいた広報官は「甘いものを食べ過ぎないように」などと心配そうに話し、健康管理の重要性を伝えていた。若松さんは「身体検査を通過してきます」と笑顔で話し、新幹線に乗り込み出発した。

3月20日、若松さんは小月基地に着隊し、これから入隊式に臨む。市ヶ尾募集案内所は「パイロットへの夢を踏み出した若者を応援していく。今後も、彼に続く人材を輩出できるよう募集活動に邁進していきたい」としている。